

## 2・3週間以内に発表か 次期F R B議長

2017年10月4日（水）

第一生命経済研究所 経済調査部  
主任エコノミスト  
藤代 宏一  
TEL 03-5221-4523

### 【海外経済指標他】

- ・9月米自動車販売台数（季節調整済年換算）は1847万台と8月から急増。自動車販売は2016年10-12月期以降、趨勢的に減少してきたが、9月はハリケーン等によって下押しされていた需要が集中した。



### 【海外株式市場・外国為替相場・債券市場他】

- ・前日の米国株は続伸。自動車販売が予想を大幅に上回ったこと等から、NYダウ、S&P500、NASDAQが揃って最高値更新。WTI原油は50.42ドル（▲0.16ドル）で引け。
- ・前日のG10通貨はUSD、JPY、EURがともに一日を通してみれば小動き。欧州時間まではリスク選好の流れから米金上昇・USD高となっていたが、米国時間入り後は、ハト派のパウエル現F R B理事が次期F R B議長の有力候補として伝えられた事などから米金利低下・USD売りの展開に。USD/JPYは113近傍で一進一退、EUR/USDは1.17前半で推移。
- ・前日の米10年金利は2.323%（▲1.8bp）で引け。為替市場と同様の動きから一日を通してみれば金利低下。欧州債市場（10年）はドイツ（0.463%、+1.2bp）、フランス、イタリア、スペインが金利上昇。対独スプレッドはスペインがワイドニング。カタルーニャ独立を問う投票結果が材料視されている。

### 【国内株式市場・アジアオセアニア経済指標・注目点】

- ・日本株は欧米株ラリーに追随して続伸スタート。寄り付き後にUSD/JPYが112半ばまで水準を切り下げたものの、日経平均は年初来高値近辺で堅調に推移（10:00）。

### < #次期F R B議長 #有力候補は4名 #10月中下旬に発表か >

- ・次期F R B議長の指名を巡る動きが慌しくなってきた。報道によれば、2018年2月のイエレン議長の任期満了を控え、ホワイトハウスでは複数の候補者と面談の場が設けられた模様。そうしたなか、トランプ大統領は9月29日に「すでにF R B議長の候補と4回面接をした。2、3週間以内に決断を下す」と発言。また10月3日には「ムニューシン財務長官がパウエル氏を支持」との観測報道が市場で材料視されるなど、

金融市場の反応も大きくなってきた。2013年10月9日にオバマ大統領が現イエレン議長を指名した日程からは僅かに遅れそうだが、近日中に重要なアナウンスがあるとみられる。

- 現時点では①イエレン現FRB議長、②ウォーシュ元FRB理事、③パウエル現FRB理事、④コーン国家経済会議（NEC）委員長が有力候補として伝えられているほか、⑤テラー元財務次官、⑥ハーバード・コロンビア大学経営大学院学長、⑦ジョン・アリソン前民間銀行CEO等が候補として伝えられている。ホワイトハウス関係者によると、トランプ大統領とムニューシン財務長官は27日にパウエル氏、28日にウォーシュ氏と面談したほか、過去にコーン氏やイエレン議長とも面談したという。何れの候補も政策金利、金融規制のあり方、支持政党にバラつきがあり、誰がトランプ大統領のお眼鏡にかなうか予想するのは難しいが、トランプ大統領が（就任前とは異なり）低金利政策に肯定的な発言を繰り返していることに鑑みると、ハト派候補の指名が有力な印象だ。
- 金融市場がどの候補を歓迎するのかは判然としないが、その上で敢えて言うならば、現行FEDの中枢メンバーである①イエレン議長、③パウエル理事が議長指名ならば、金融政策の予見可能性が高まるという点においてポジティブと考えられる。これまでと同様、金融市場との対話を重視する路線を踏襲した上で、緩やかに金融緩和の解除を進めるだろう。株価は高値圏維持、金利は低位安定（ないしは緩やかな上昇）、ドルは横ばい（ないしは緩やかな下落）が想定される。
- 反対に②ウォーシュ氏、⑤テラー氏、⑥ハーバード氏が指名された場合、政策金利引き上げの可能性が高まることから、金融引き締めの構造的なポジションの構築が進む可能性がある。株価は金融株に恩恵が及ぶ一方で製造業や高配当株への打撃が想定され、全体としてはややネガティブな印象。金利は上昇、為替はドル高が進み易いとみられる。また、金融規制の観点からは②ウォーシュ氏、⑦アリソン氏が指名ならば双方とも金融機関出身ということもあって金融規制の緩和が意識されそうだ。
- 他方、人種差別問題が起こるまで最有力候補の一人と伝えられてきた④コーン氏が指名された場合、市場の反応を読むのは難しい。インフラ投資拡大、製造業への挺入れなどトランプ大統領の肝いり政策を側面支援する観点から低金利政策を選好するとみられるが、バーナンキ体制をほぼ完全に踏襲したイエレン議長の就任時とは異なり、やや不確実性が高まるだろう。金融政策の予見可能性が低下することで市場はやや波乱含みとなる可能性がある。その場合、2017年12月FOMCの追加利上げの予想は変わらずとも、18年以降の利上げパスに不透明感が生じるよう。ちなみに最新のドットチャートによれば、19年は2回、20年は1回の追加利上げが計画されている。